

日常性の重き深部に立ち、
軽々かが日常性に反逆せよ！

國家権力と当局の強权的威嚇を不屈の決意を持て、はぬぬえし、氣波移転粉砕まで、断乎として永遠に斗う覚悟を固めておる諸君！ 我々西洋史斗争委員会から、今後の斗争の方向性と、それに踏まえた決意と連帯を送りたい。

● 一つの想像的仮定

●一つの想像的自己辯護
具体的な状況の中での自己を向かえし、これを透視することによって自己を投げなげるべき深淵を探し当てるが、68・69年の学生運動が獲得した学生運動における新しい真であるとあるのなら、我々は我々自身を向かえする所から出発して更この斗争を展開していくべきではない。

● 一つの現実

● 現実の現実

④ エル大の功業
しかし、教育大のバリケードはこのチャラさに蒙蔽されぬ如く、その奥体はカエルとナメクジとヘビの相互依存の中で弱々しくヘビがテバ、テリたよう辱るものであつた。そのヘビとは、結局、希望をガス状のモヤである。我々は、バリケードといふ真空割出装置をあくまで出し乍ら、その中で新しい「根に反逆する人間」を造り出すことなく放逐されてしまつたのだ。そして9月奪還斗争は250日間のハネッカエリとしてあり、戦術的ラディカリズムの3週間の後、斗争の痕として何らの転換も高次元化も年を経ず、じり貧状態に陥入ってしまった。

想像的假定は現実を告発する

想像的復元は絶対的な否定である

◎想像的假定は絶対的な否定である。眞偽を否定するときは、それのみで充足し、貴重なものはない。諸君！斗争することは如何存るこなし。井戸を否定するときは、それのみで充足し、貴重なものはない。否定する対象が一つの社会組織またはその分離物である以上、その上に否定が及ぶことは、必ずあり。自身についての否定がないのなら、それは結局の所、真なる权力の根柢をも含むまい。

- 一つは決意一派と否定派と人は言えども、想像的仮定は現実にくらいうくのに一

現在のヨリ争日以上の様な我々のイメージを實現すべく新となるヨリ争を展開する。領先としてのヨリ争の憑依性をもつ断乎としたヨリ争へ取換する前に、我々は、我々のイメージを致しまじない。我々は、我々のイメージを現行のヨリ争組織の変革を目指す。勝利と失敗の危機をその戦略を自己の内にとり入れるべき前提となる決意を我々は必ず確認し、独立した組織でヨリ争全体を成していく結果立場として我々はヨリ争は組織であり、組織がヨリ争である様な、任意組體制による割合といたヨリ争集団を構築していくであろう。

現在、我々の三軍は、個別争闘と争争の構を実現して、政治的权がとの直接的対話に至ったことは、即ち我々の軍隊の本質と重い帽子の称自未来も含めた全ての日常性そのものに我々衣喰い込み、それによきすることをもって三軍を展開していく所はなうないという意味を持つ。即ち、我々日々想定をもての進むことと、日常性の中へ導入し、日常性を破壊する為に、日常性はその表面に持つ最大の裏方に身を置く必要がある。これがこそ最も重き課題を継げることであり、自己否定の無限連続である。

●二つの時代振り — 決意と断固とした実践を我々は頑張らうとする —

現在の全争斗の具体とクラスの状態を批判的に統括する中より、我々は新たに結集點を設置して争斗を開き相談すべく決意した。

全學生の再編強化を具体的斗争をもって実現し、終局的には全学生会のリベラル、全英語の中堅は、
長すべく、我々は以下の基準を設定した。この二つを経て、皮の裏側における革命性を感じる学生は、
の評定によりに答えて結集せよ。

卷之三

(4) 痘痘子等多系統的進行之演變

- (A) 球磨移歎阻止、研究學園都市松尾湖研究
(B) 大学の原田主義的改編論議、中教審答申演説
の発表として吉田の長老の著書

古漢集林

講座別一クラス解体 → 教室会解体
日々の身体の変遷

「クラス共同体の核を突破する」
我々の新集団を「星ヨシ達」と名づけたい。住民加盟制をくりこなすまじき連合の下、虹色を展望して、星として東山実力団隊を打倒するのがその目的である。相應員は主導的個人として所産としてまとまりやすく、星銀ゼビラを書き、しかもそれを「星ヨシ達」の名をもって実行するであらうし、「星ヨシ達」は、星銀ゼビラを書き、しかもそれを「星ヨシ達」の名をもって実行するであらうし、「星ヨシ達」と違った彼自の行動を展開するであらう。従って相應員は各自が組合員であり、代表としても、針と違った彼自の行動を展開するであらう。従って相應員は各自が組合員であり、代表としても、

星乙の身友諸君！ 星斗連を名乗り、全斗連の代表として行動すべく、日帝性の事を
及ぼす日帝性に反対せよ！

（スケミヨーハ） 10日、1時 結成大會 於 中大

之遺稿失所，亟宜收存，勿失。